

学校だより

横浜市立十日市場小学校

12月号

令和3年11月30日(火)

緑区十日市場町1392-1番地

電話：981-0420・7119 FAX：983-1694

横浜市情報ネットワーク（YYネット）上に本校のホームページがあります。

本の世界から学ぶこと

校長 平田 あや

街路樹の木々が色づき、紅葉が美しい季節になりました。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、本校では11月から12月初めにかけて、様々な活動を通して読書を奨励しています。「もっとたくさんの人に、本に親しんでほしい。」という願いから、図書委員会児童はしおりを作成しました。「読書週間」[11/29(月)～12/3(金)]中、図書室の本を借りた人に、そのしおりをプレゼントします。図書室横のスペースには、みんなのおすすめ本紹介カードが展示されます。

また、図書委員会児童が「教師のおすすめ本紹介ビデオ」を作成し、テレビ集会で全校に紹介しました。私のところにも、「校長先生のおすすめ本を教えてください。」と依頼がありました。日程調整を行い、約束の日には、自分のiPadを持参して撮影に来ました。iPadの扱いも撮影の仕方も堂々としたもので、「それでは、3、2、1どうぞ。」と合図を出す姿は、とても頼もしいものでした。



私は、武田美穂作の絵本「となりのせきのますだくん」という本を紹介しました。主人公の1年生の女の子は、学校へ行きたくありません。その理由は、隣の席に座っている男の子、ますだ君です。机に線を引き「こっからでたらぶつからな。」なんて言うのです。絵本では、ますだ君は「怪獣」として描かれています。やることなすことまるで怪獣なのですが、ますだ君の「ごめんよ。」という台詞の後、挿絵のますだ君は「普通の男の子」に変わります。

この本は、私が担任をしているとき、子どもたちに読み聞かせをし、とても印象に残っている本です。読み聞かせ後、子どもたちから、「どうして、ますだ君は怪獣じゃなくなったの?」「ますだ君のことが怖かったから、怪獣に見えていたってこと?」「ますだ君は、本当は怖い子じゃないってわかったんだ。」「だから、怪獣じゃなくなったのか…。」など様々な感想が出てきました。そして、この日以降、子どもたちは、熱心に友達のよいところ見つけをするようになりました。年度末に、「クラス全員のよいところを探せた!」と嬉しそうに報告に来てくれた子もいました。

1冊の絵本を紹介したことで、子どもたちは、「この子は、こういう人だ」と決めつけずに、いろいろな角度から多面的に見てみることの大切さに気付くことができたのでしょうか。本との出会いから、子どもたちはたくさん価値を学ぶことができることを実感した1冊です。

子どもは、読書活動を通して、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくことができます。本の世界から学ぶことは、きっと無限にあるでしょう。お気に入りの1冊を手にとって、ぜひ親子の会話も楽しんでみてください。